

2月講座 循環型社会に向けて

～廃棄物処理の動向を知り、3R・廃棄物の適正処理について考える～

□実施日 平成25年2月13日(水)、21日(木)、27日(水) 全3日間

□受講者数 定員50名、受講申込者52名 受講決定者52名
(会場の収容可能人数以内であったため、52名を受講決定)

□実施内容

【第1日目(2月13日水曜日 午後)】講義 (出席者数 47名)
(東京都庁第二本庁舎 213・214 会議室)

○挨拶等

- ・事務局(研究所)から受講上の注意、資料確認、全体スケジュール等
- ・環境局環境政策課(企画調整係)より開講挨拶及び本講座の目的等について

○講義

各講師より、レジュメに沿っての説明及び受講者との質疑応答が行われた。

【前半】 「循環型社会と都市廃棄物問題」

(講師) 首都大学東京 都市環境学部 准教授 荒井康裕氏

(内容)

- ・廃棄物処理・リサイクルに関する法体系概要などの説明の後、家庭ごみの組成分析調査のデータに基づくごみ減量化施策の考察等を紹介した。また輸送費も含めた都市ごみの広域処理に関する費用及び適正規模についても説明があった。

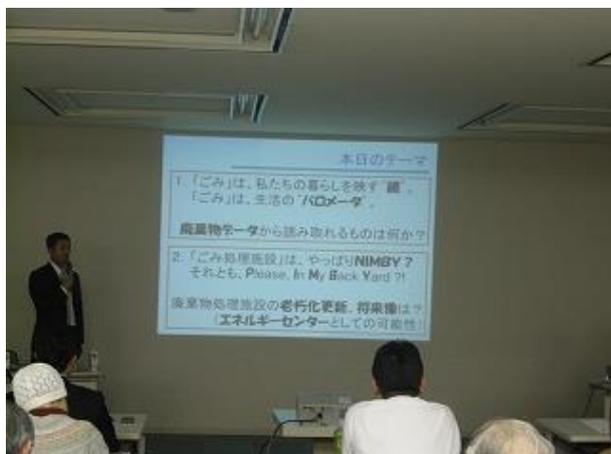
【後半】 「アジア廃棄物現地レポート」

(講師) 公益財団法人東京都環境公社 技術部 国際協力事業担当係長 岩崎貴信氏

(内容)

- ・比較対象として東京のごみ処理について紹介した後、東南アジア各都市(ハノイ、プノンペン、ヤンゴン、デリー、シンガポール、ジャカルタ)のごみや廃棄物処理の現状及び最新動向等について、現地調査した結果などをもとに報告した。

○事務局(研究所)からの事務連絡後、終了。解散



「循環型社会と都市廃棄物問題」



「アジア廃棄物現地レポート」

【第2日目（2月21日木曜日 午後）】講義 （出席者数 44名）

（東京都庁第二本庁舎 207・208 会議室）

○講義

「3R・廃棄物の適正処理についての最新動向」というテーマで、以下の3講義を実施。各講師より、レジュメに沿っての説明及び受講者との質疑応答が行われた。

① 小型家電リサイクルと金属資源の循環利用

（講師） 東京都環境局 廃棄物対策部 資源循環推進課 処理技術担当係長 茂木敏氏

（内容）

- ・ 廃棄物処理プロセスにおいて金属資源が注目されている背景
- ・ 都市鉱山としての東京のポテンシャル
- ・ 小型電子機器リサイクルに係る法制化等の動向
- ・ 回収モデル事業や、東京都環境科学研究所で実施した小型電子機器中の希少金属分析調査など、東京都における取組について
- ・ 都内区市町村における取組の紹介
- ・ 小型電子機器リサイクルに関する諸課題



② 産業廃棄物としての蛍光ランプの適正処理の推進

（講師） (株)パナソニック エコソリューションズ社

都市環境商品営業企画部 参事 乾 享氏

（内容）

- ・ 蛍光ランプとは(原理と課題)
- ・ 産業廃棄物としての蛍光ランプの位置づけ
- ・ 蛍光ランプリサイクルの現状と課題
- ・ 蛍光ランプのリースによる事業用蛍光ランプ等の適正処理について



③ 食品ロスを活かすフードバンクの普及に向けて

（講師） セカンドハーベストジャパン 広報室長・プロジェクトマネージャー 井出留美氏

（内容）

- ・ フードバンクとは
- ・ 世界、日本の食品廃棄量及び食品ロスについて
- ・ 世界におけるフードバンク活動の動向
- ・ 日本における食品ロスの要因及び食品ロス削減に向けた国の動きについて
- ・ 日本におけるフードバンク活動について
- ・ フードバンク活動に参加することによる企業、受け手側の施設及び行政のメリット
- ・ フードバンク活動の今後の可能性



【第 3 日目（2 月 27 日 水曜日）】 事例視察 （出席者数 38 人）

【午後】 事例視察

都庁より二班に分かれてバスにて移動し、廃棄物処理関連施設を視察した。

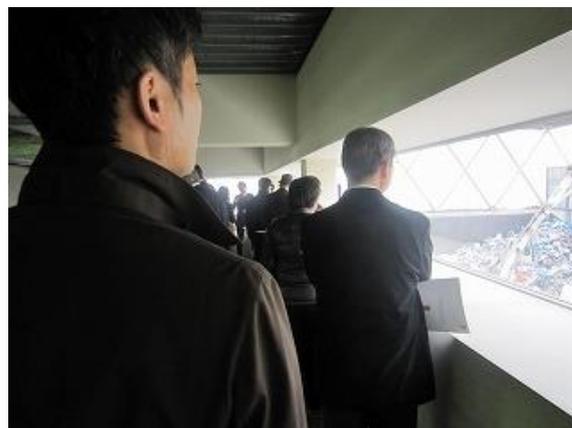
（A 班：都庁 → ① → ② → JR 鶴見駅付近にて解散、

B 班：都庁 → ② → ① → JR 大森駅付近にて解散）

① 廃情報機器類等リサイクル施設（㈱リーテム 東京工場）

○概要説明及び視察

- ・ リーテム㈱の事業内容及び東京工場について担当者様より概要説明
- ・ リーテム㈱東京工場の選別、破碎等の作業風景を視察
- ・ 小型電子機器リサイクルの概要等について、担当者様より説明。
- ・ 質疑応答等



（株）リーテム東京工場での説明・視察

（終了後、バスにて移動）

② 蛍光管リサイクル施設（JFE 環境㈱ 鶴見蛍光灯リサイクル工場）

○概要説明及び視察

- ・ JFE環境㈱の事業内容、取組等についてDVDの視聴及び説明を受けた後、蛍光管リサイクル工場を視察、質疑応答を行った。



JFE 環境㈱ 鶴見蛍光灯リサイクル工場での説明・視察

○視察終了後、バスで JR 鶴見駅又は JR 大森駅まで移動。アンケート提出・名札返却後、解散。